

紀州田辺の梅 データ編

data

※JA紀南のデータについては、平成15年以降は合併後の数値です。
 ※市町村のデータについては、市町村合併が行われた場合は、合併以降は合併後の数値です。
 田辺市は平成17年5月に合併しています。

田辺市における農業

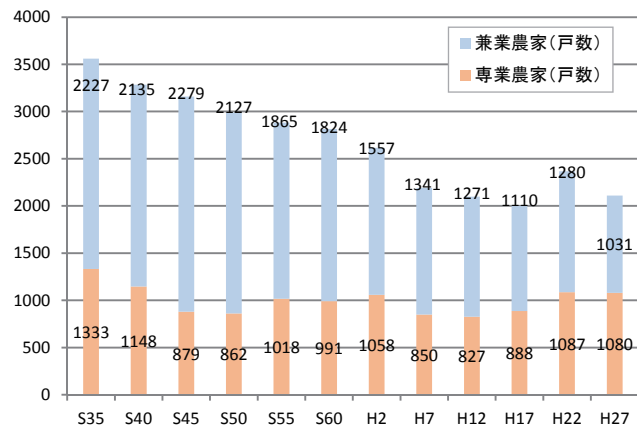
農家戸数

田辺市内の平成26年度の総農家戸数は、2,111戸で昭和60年と比べて704戸(25%)減少しています。

しかし、専業農家戸数の減少は見られず、一定の戸数で推移しています。

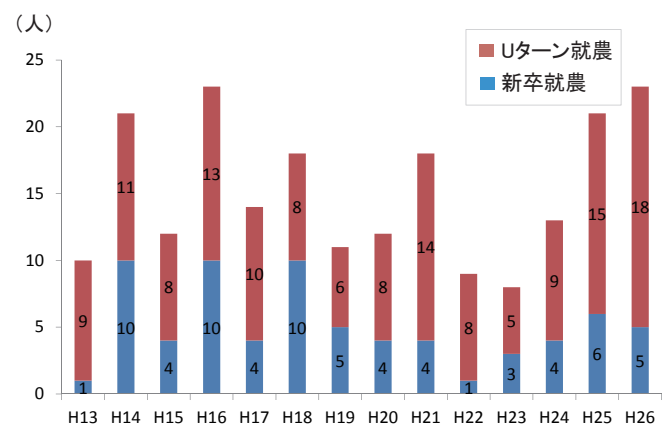
農業後継者については、JA紀南管内においては、毎年、新規就農者が確保されています。

田辺市の現業別農家戸数



資料: 農林業センサス2015ほか

JA紀南における新規就農者数の推移



資料: JA紀南

農業産出額

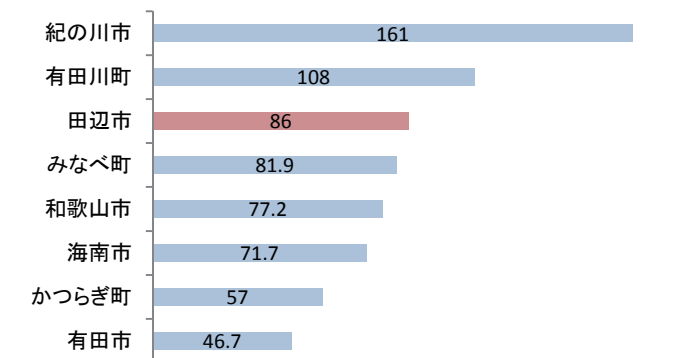
平成24年度現在の農業産出額では、田辺市が和歌山県第3位で約86億円となっています。

田辺市は人口等が類似した他の市と比較して、産業における農業が占める割合が大きい市となっています。

和歌山県の主要農作物である梅とみかんの産出額の推移を見ると、年度により産出額が増減しています。

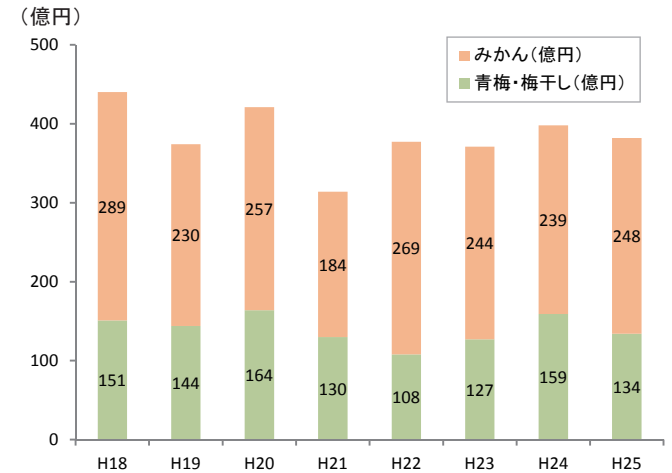
近年、梅については平成16年度の産出額が239億円ですが、22年度に108億円に落ち込み、その後増減がありました。24年度に136億円と16年度と比較すると約43%落ち込んでいます。

市町村別農業産出額(平成25年)



資料: 果樹出荷統計

和歌山県の梅・みかんの産出額の推移



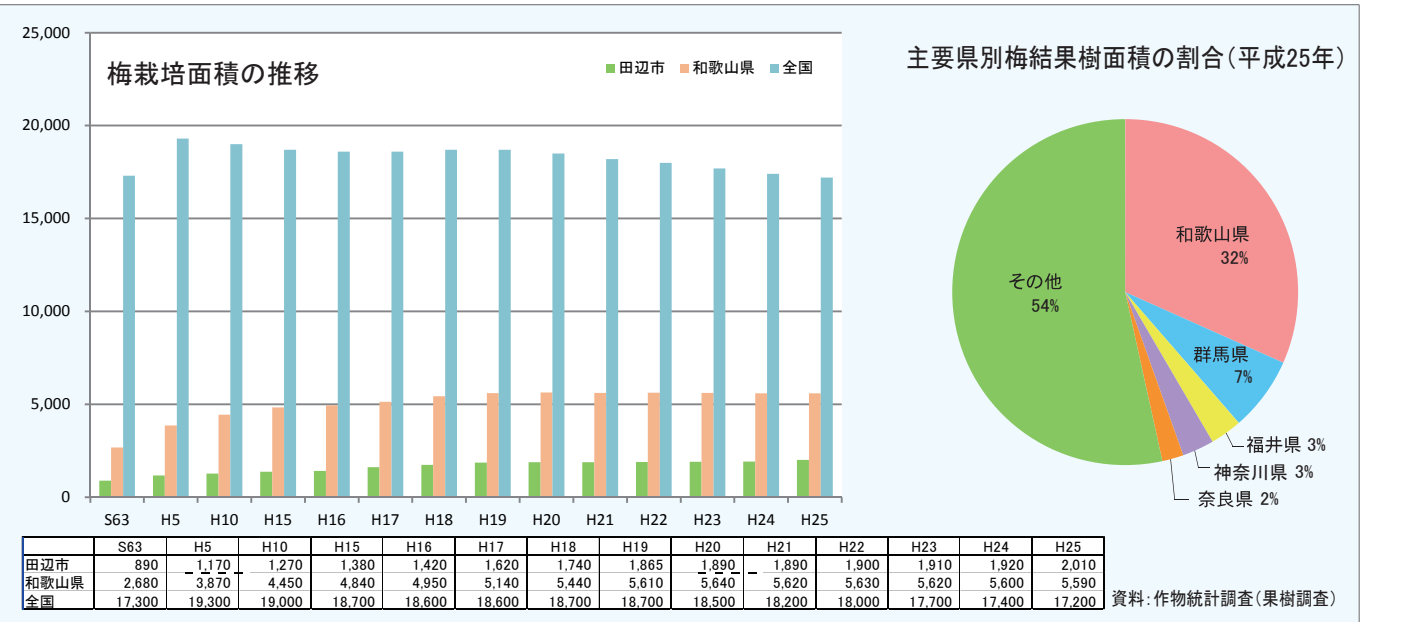
資料: 生産農業所得統計

梅の栽培面積及び収穫量

紀州田辺の梅 データ編

梅の栽培面積

和歌山県の梅栽培面積は、全国の約3割を占めています。また、田辺市の梅栽培面積は、全国の約1割となっています。全国の梅栽培面積は、昭和40年の11,900haから昭和45年の15,900haへと著しく増加し、昭和45年以降は需要の減少等から横ばいになっています。昭和55年頃からは、和歌山県をはじめ群馬県、福井県などの各県で栽培面積が増加し、全国の栽培面積は、平成5年時点で昭和40年と比較して約1.5倍の19,300haとなりました。その後、やや面積の減少がありましたが、平成25年で17,200haとなっています。



資料: 作物統計調査(果樹調査)

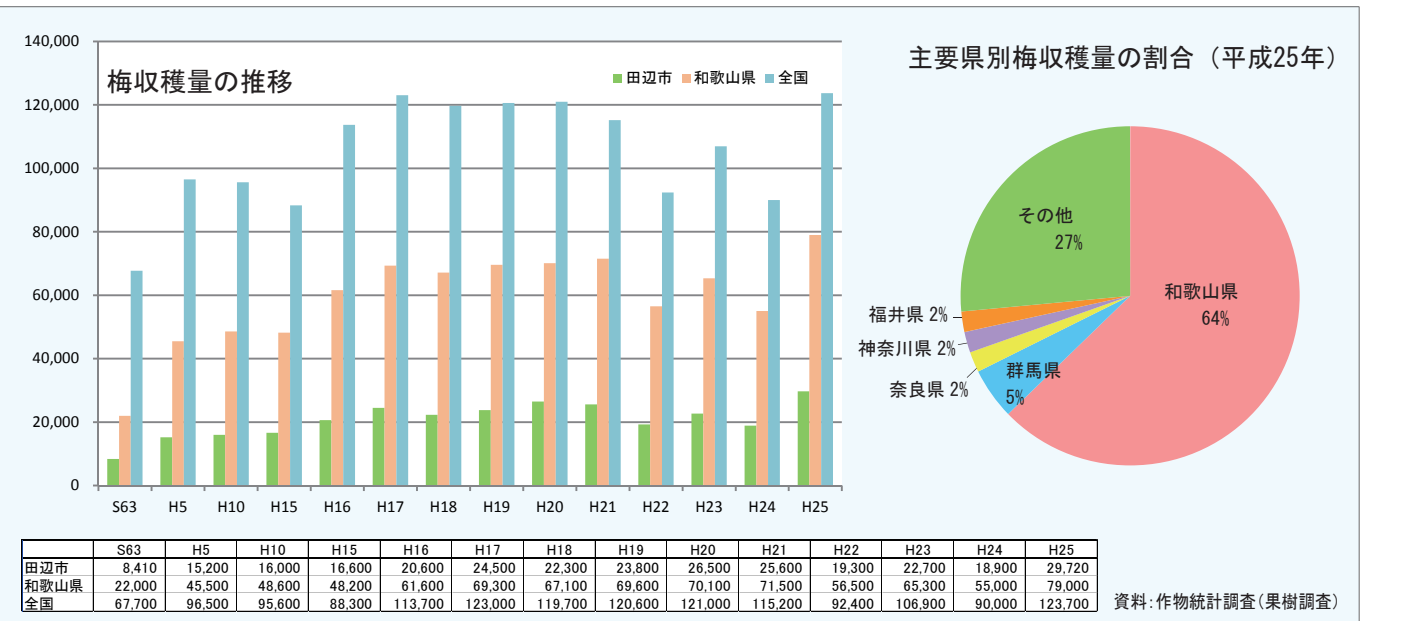
梅の収穫量

和歌山県の梅収穫量は、全国の約6割を占めています。面積割合(約3割)に比べ、収穫量の割合が高いのは、10a当たりの収穫量が他県よりも圧倒的に多いからです。

梅の消費は、昭和45年から昭和55年にかけて、やや停滞しましたが、昭和55年頃から自然食・健康食品ブームによって栽培面積が増加したため、このことに伴って収穫量が再び増加しました。

しかしながら、梅の収穫量は天候に左右されることが多く、特に梅の花が咲く頃の気象条件により受粉が安定しないため、作柄は年次変動が激しいといわれています。実際に平成15年は天候不順等が原因となって収穫量は大幅に減少しています。

一方、平成25年には、和歌山県の収穫量で過去最高を記録し、79,000t(全国は123,700t)でした。



資料: 作物統計調査(果樹調査)